

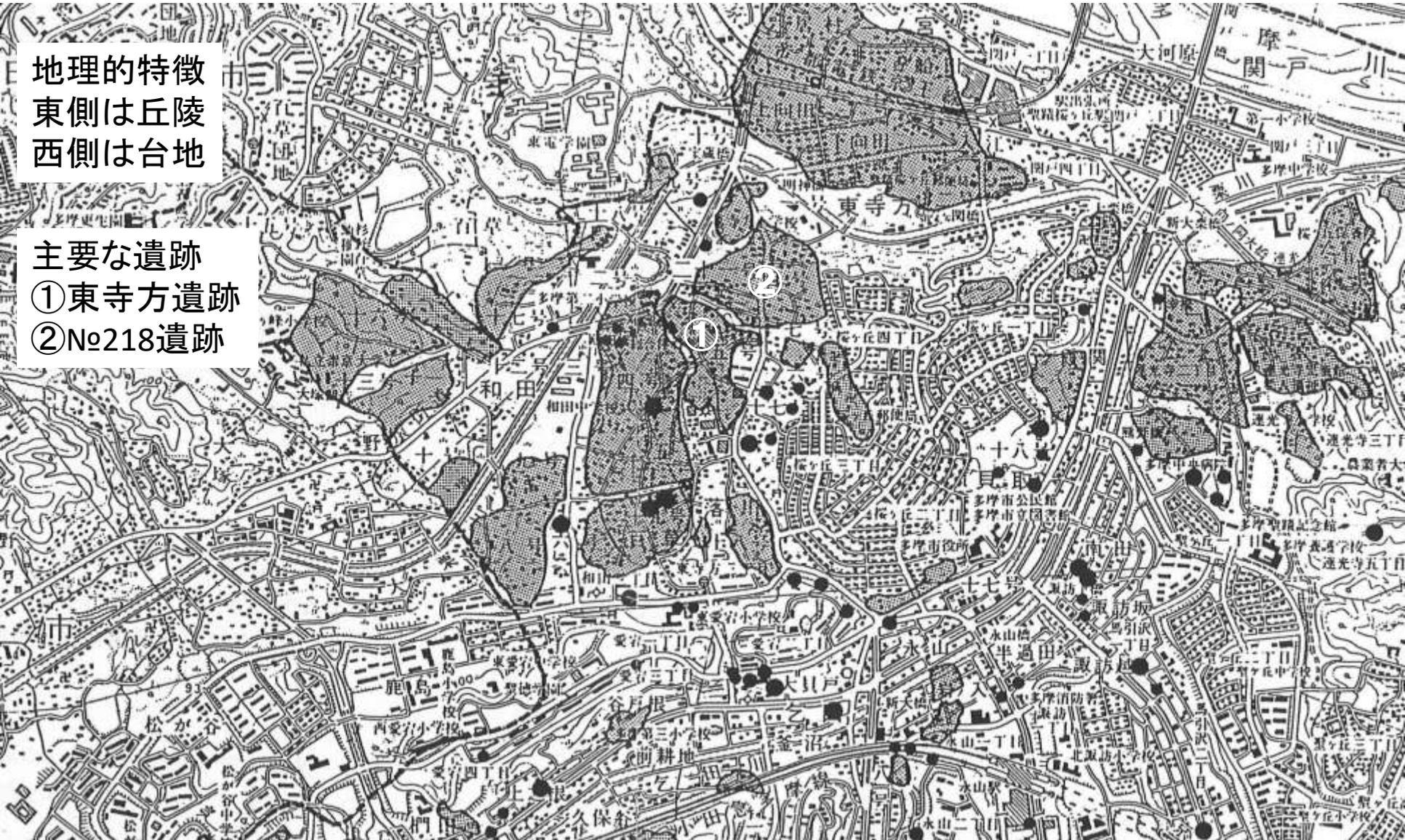
東寺方の地域史



東寺方の地理的環境

地理的特徴
東側は丘陵
西側は台地

主要な遺跡
①東寺方遺跡
②No218遺跡



1. 東寺方地域の最初の人類

旧石器時代(約13,000年前)の石器が東寺方遺跡から発見されている。

和田・百草遺跡から発見された旧石器

昭和55～56年・・・市立総合体育館建設に伴う調査

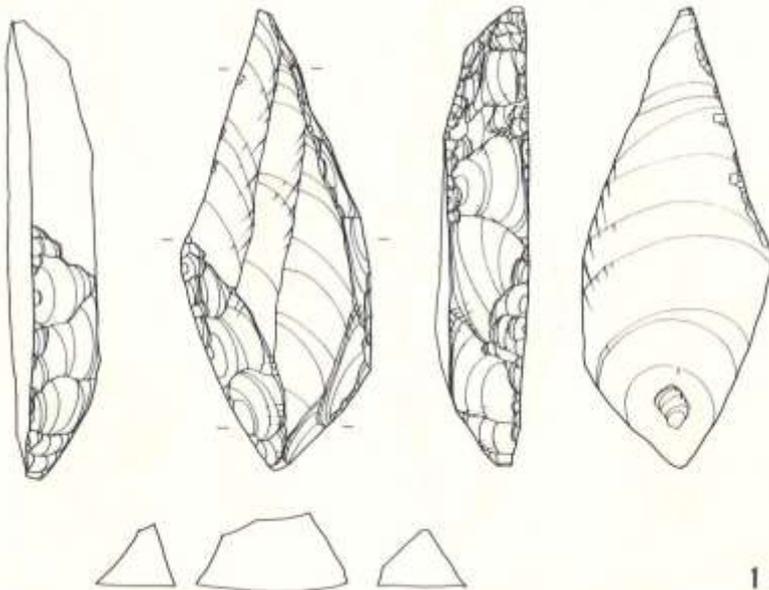
遺物分布集中域10箇所

平成9年・・・都道工事に伴う調査

礫器・剥片3点を確認

平成10～12年・・・都道工事に伴う調査

遺物集中区2箇所



2. 東寺方地域の縄文時代

○約1万年続いた時代

草創期－早期－前期－中期－後期－晩期の6時期に分かれる。

①東寺方地域の最初の縄文人

○早期(約6,000年前)・・・市内の丘陵上いたるところに陥穴(おとしあな)が作られる。

東寺方地域でも台地上に陥穴が多数作られる。

昭和55～56年の市立総合体育館建設に伴う調査・・・43基

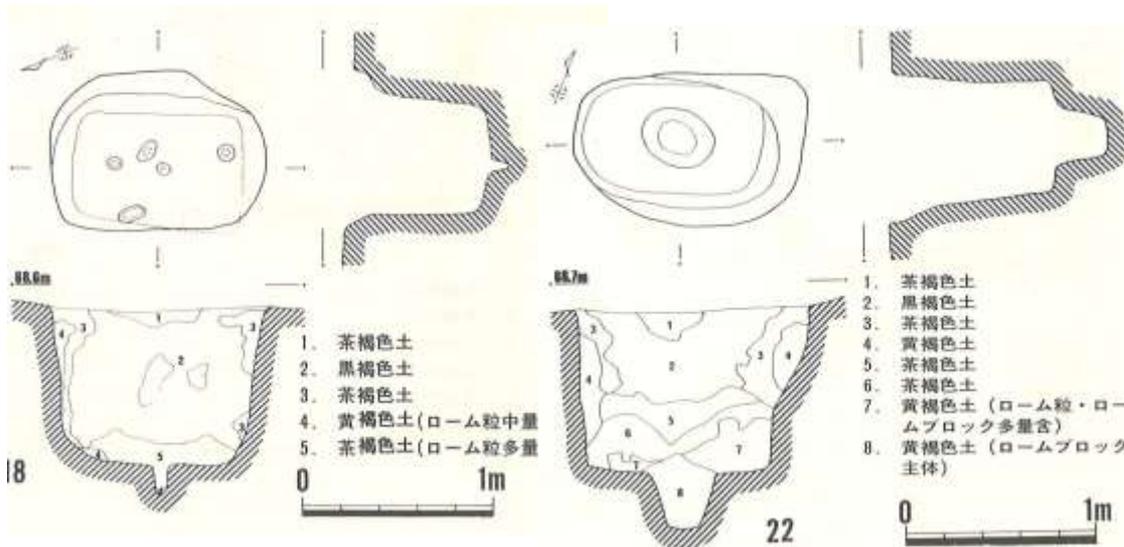
昭和58年の市道工事に伴う調査・・・1基

平成9年の都道工事に伴う調査・・・6基

平成10～12年の都道工事に伴う調査・・・20基



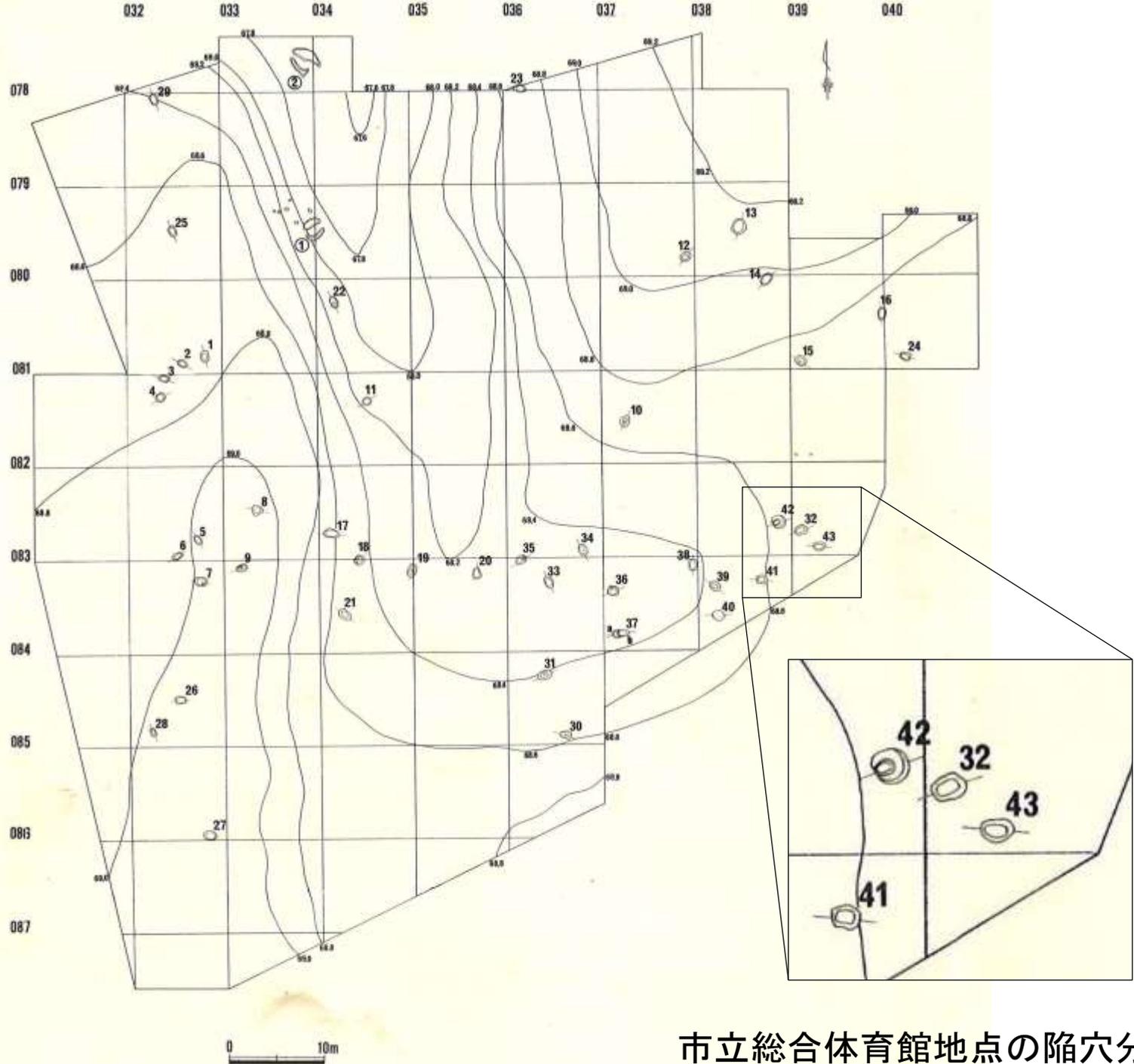
狩猟のイメージ(玉川大学HPより)



市立総合体育館地点で確認された陥穴



陥穴の構造
((公財)広島県教育事業団HPより)



市立総合体育館地点の陥穴分布

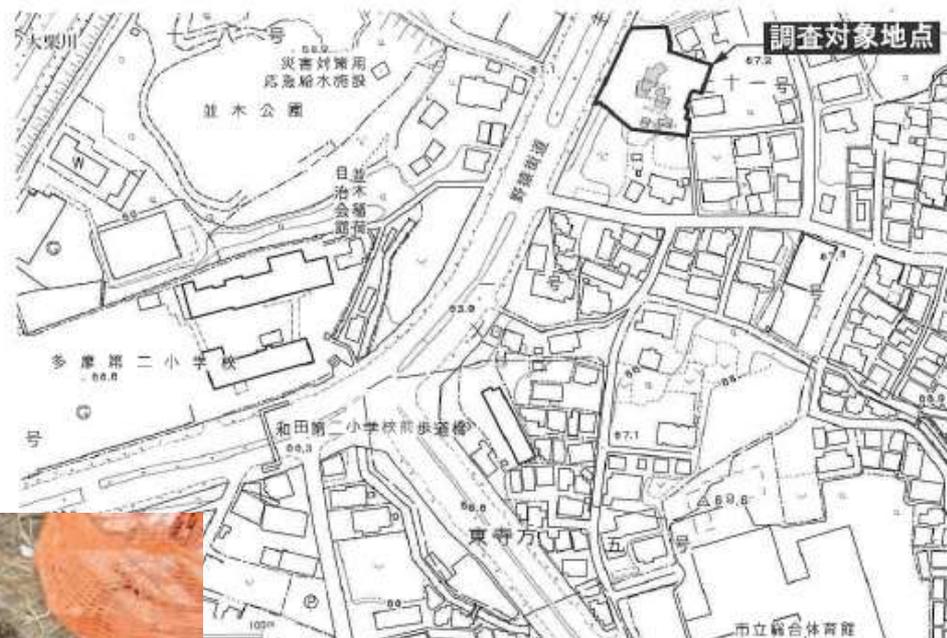
②大栗川流域で最も下流に位置する縄文時代中期の集落の発見

○平成29年調査のNo218遺跡

縄文時代中期後半の竪穴建物跡

4棟を確認

うち1棟から有孔罎付土器が出土



調査位置図

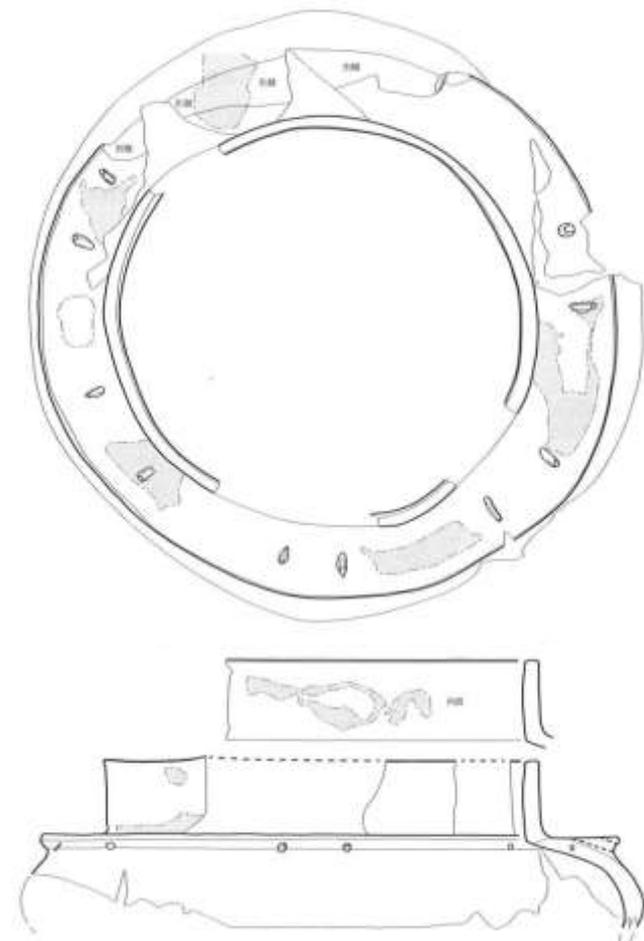


発見された竪穴建物跡



↑有孔罎付土器↓

出土した土器



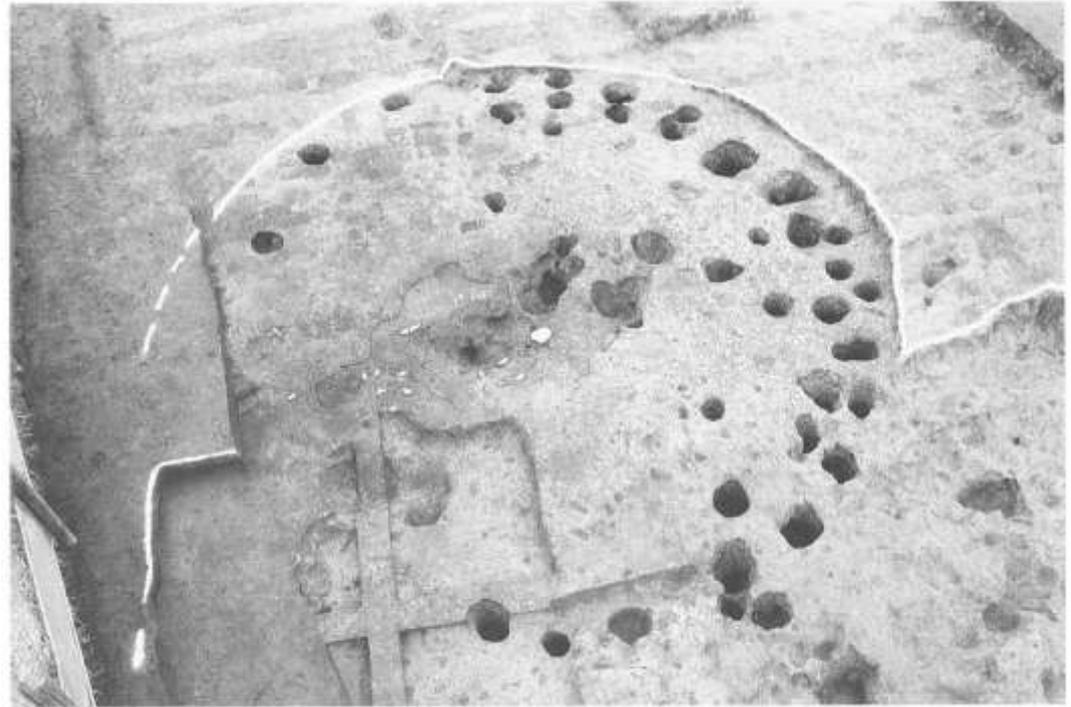
有孔罎付土器

③縄文時代後期の集落

○平成9年の都道工事に伴う調査・・・竪穴建物跡2棟



J・SI1



J・SI2



J・SI1 石囲炉



J・SI1出土の土器

3. 東寺方地域の古墳時代

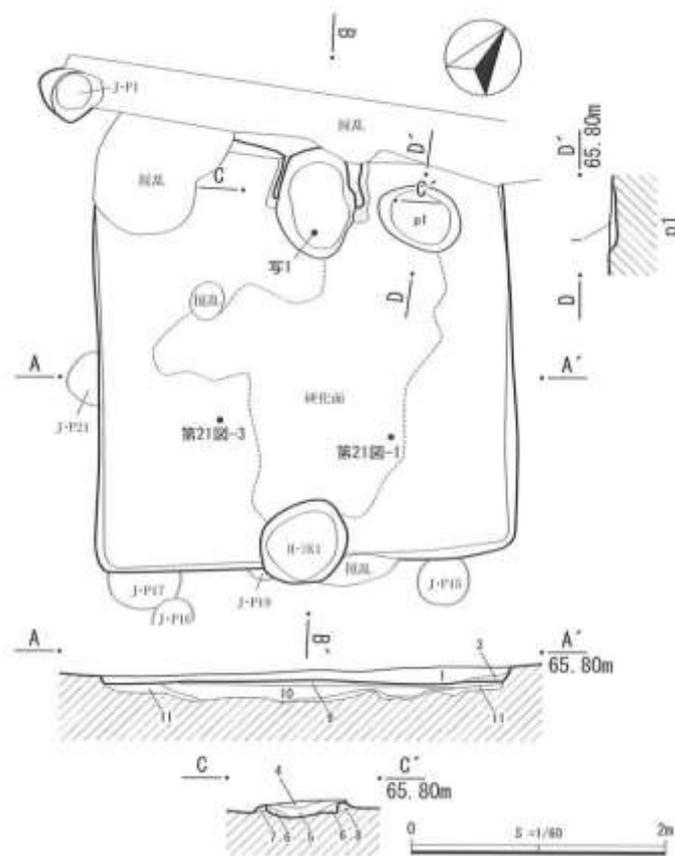
○古墳時代後期の集落跡

東寺方遺跡

昭和55～56年の市立総合体育館建設に伴う調査・・・竪穴建物跡1棟

№218遺跡

平成29年の調査・・・竪穴建物跡4棟



№218 H・SI4



← 古墳時代後期竪穴建物跡

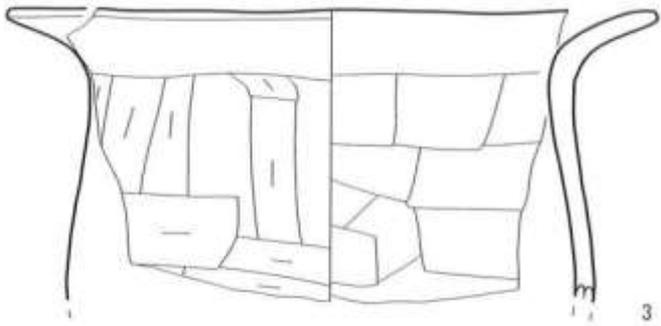
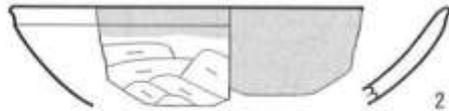
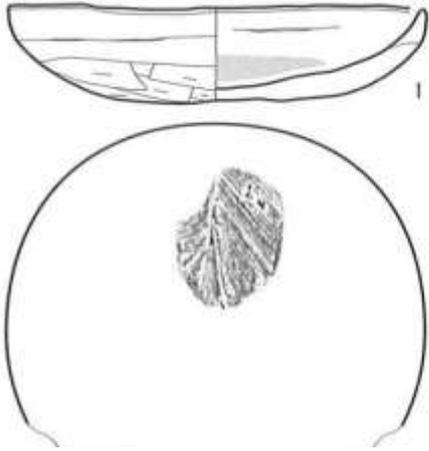
№218遺跡の竪穴建物跡



みずも すえ
水漏れしない須恵
器は、水をためて。

ひ つよ ほじ き
火に強い土師器は
ちょうりようぐ
調理用具として。

カマド模式図
(大野城市HPより)



0 S=1/3 10cm

H・SI4出土遺物

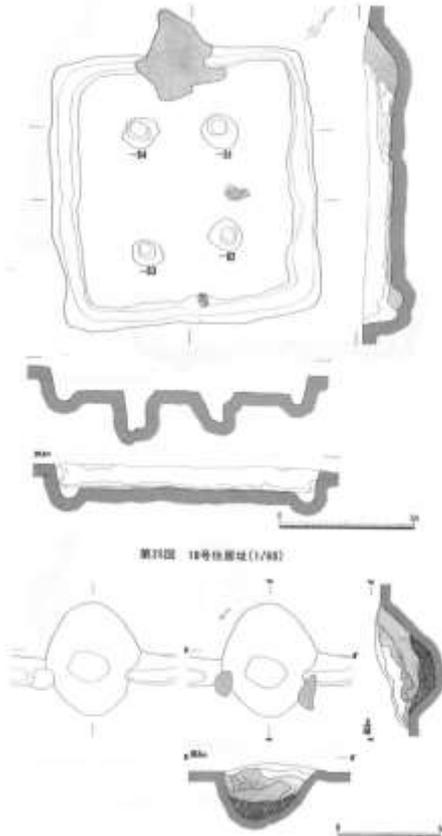
4. 東寺方地域の古代

古代の集落跡の発見

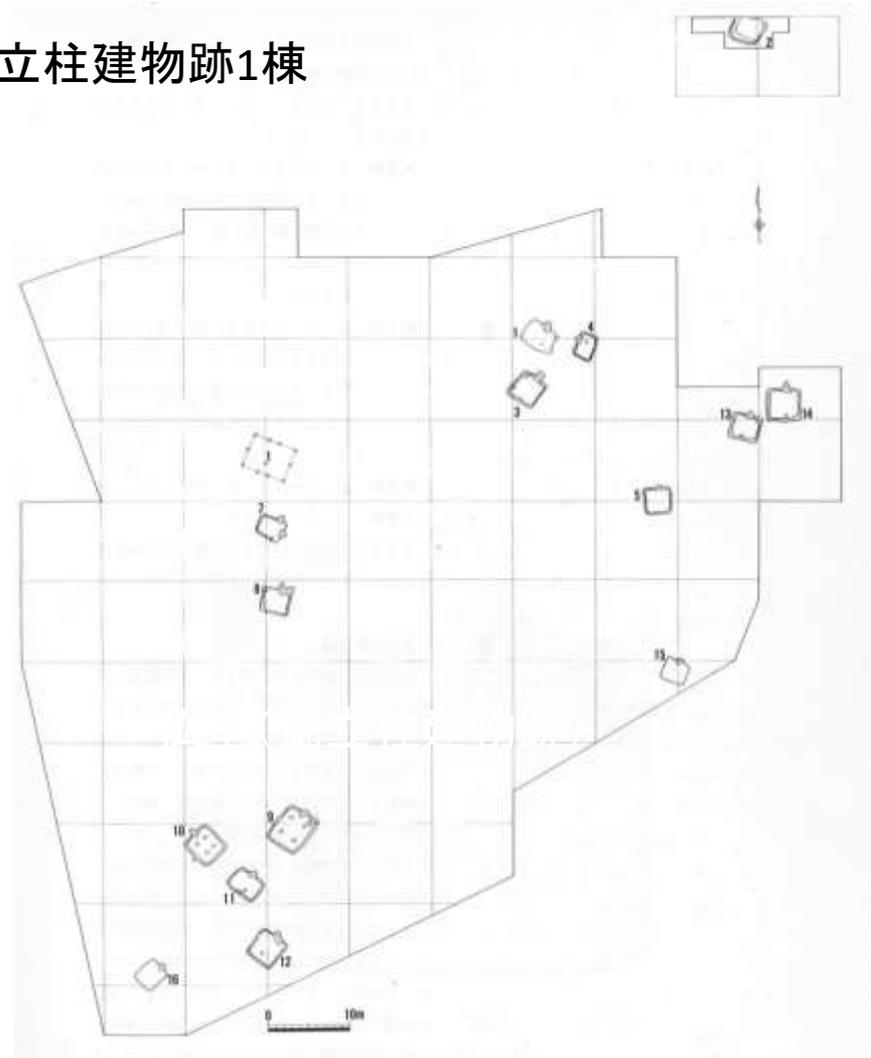
①東寺方遺跡

市立総合体育館に伴う調査

- ・奈良時代前半の竪穴建物跡13棟、掘立柱建物跡1棟
- ・奈良時代後半の竪穴建物跡1棟
- ・平安時代の竪穴建物跡1棟



奈良時代の竪穴建物跡



東寺方遺跡の古代の竪穴建物跡の分布

②No218遺跡

- ・9世紀末～10世紀初頭の竪穴建物跡3棟を確認
- ・H・SI5より北関東以北で見られるタイプの甗の出土
→特異な出土状況から住居廃絶時の儀礼と考えられる
→北方系の移民の可能性



甗の出土状況



出土した甗と須恵器

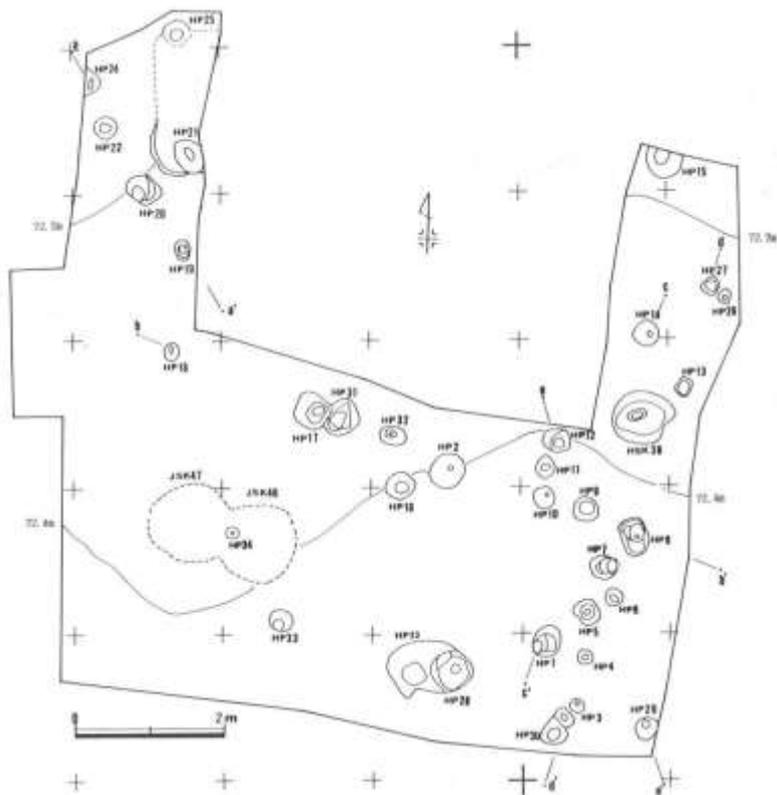


5. 東寺方地域の中世以降

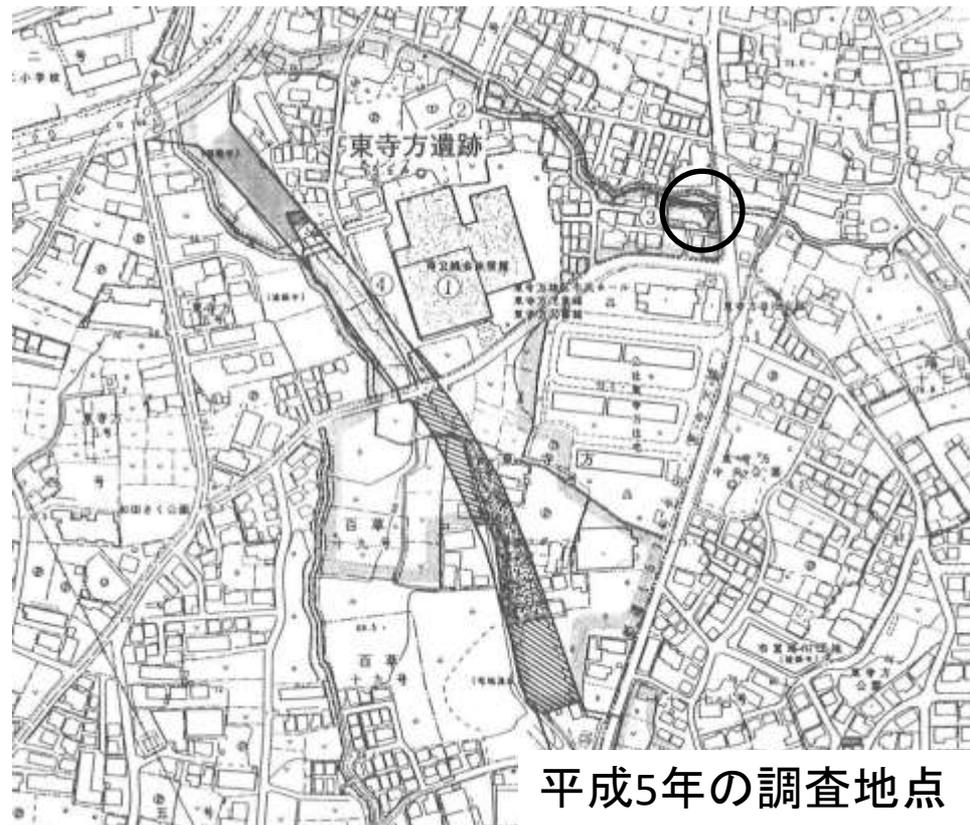
○中世以降の生活の痕跡

東寺方遺跡

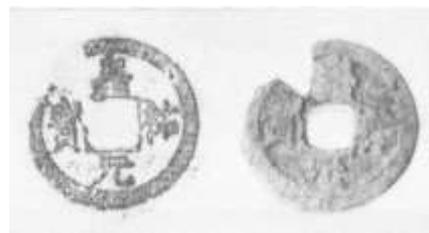
平成5年の調査・・・中世以降の柱穴(掘立柱建物跡か柵列跡)



柱穴群平面図

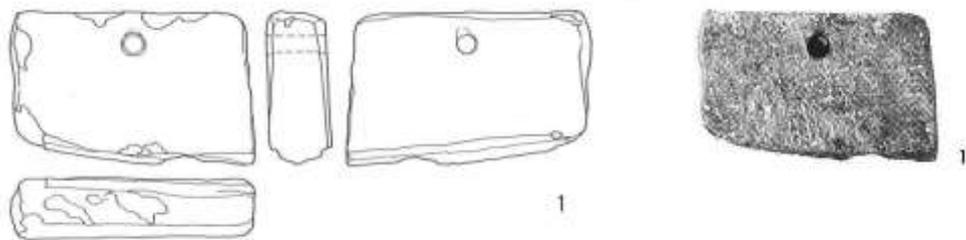
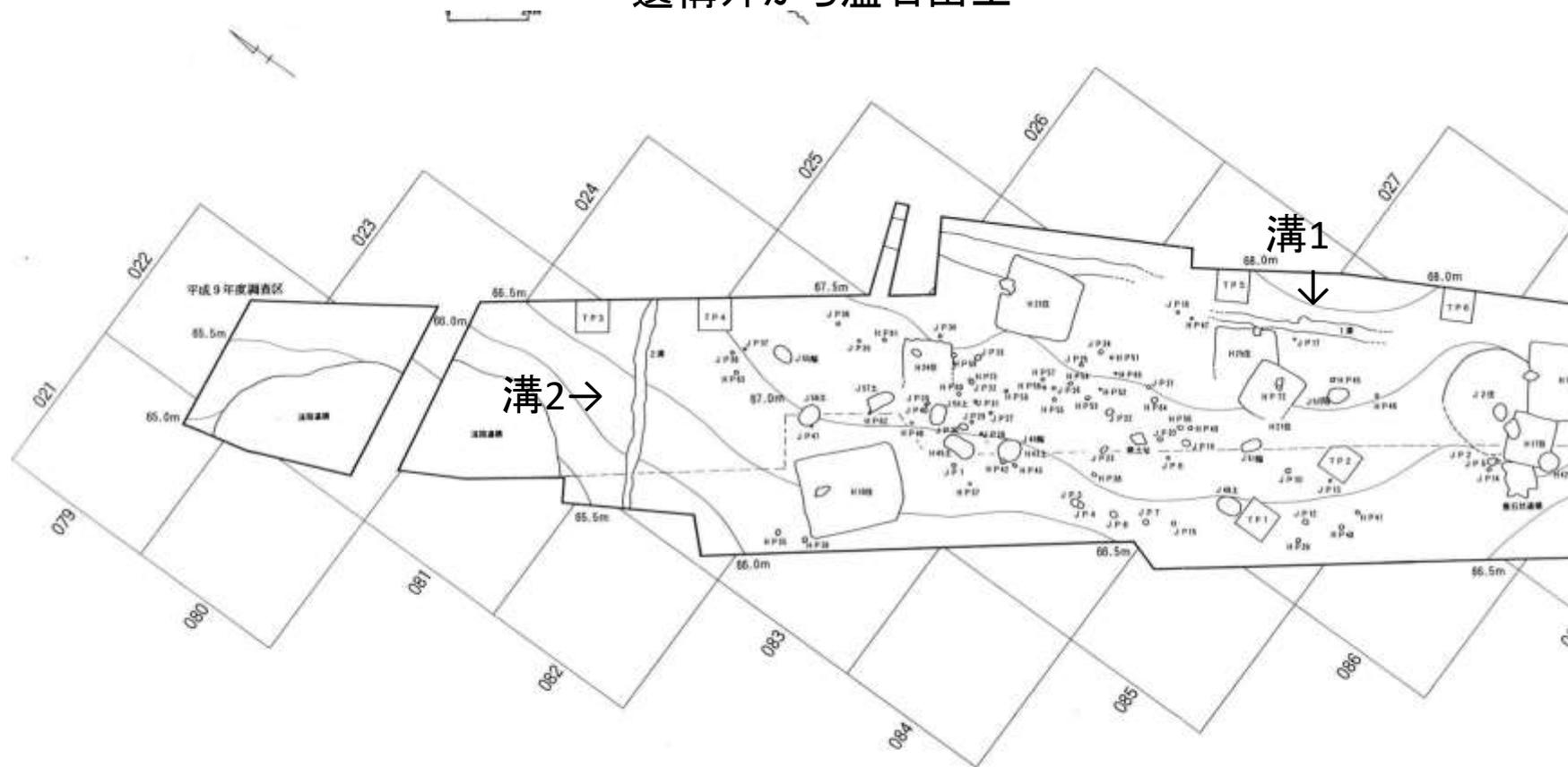


平成5年の調査地点



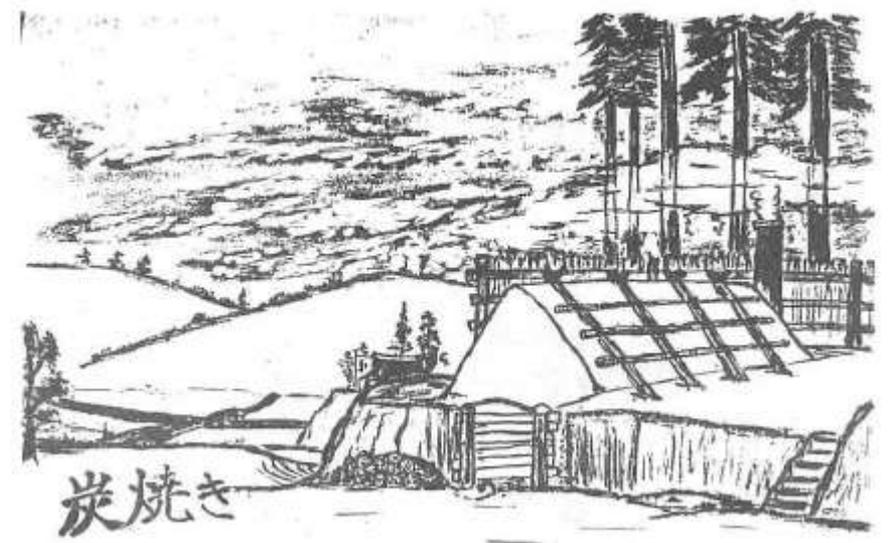
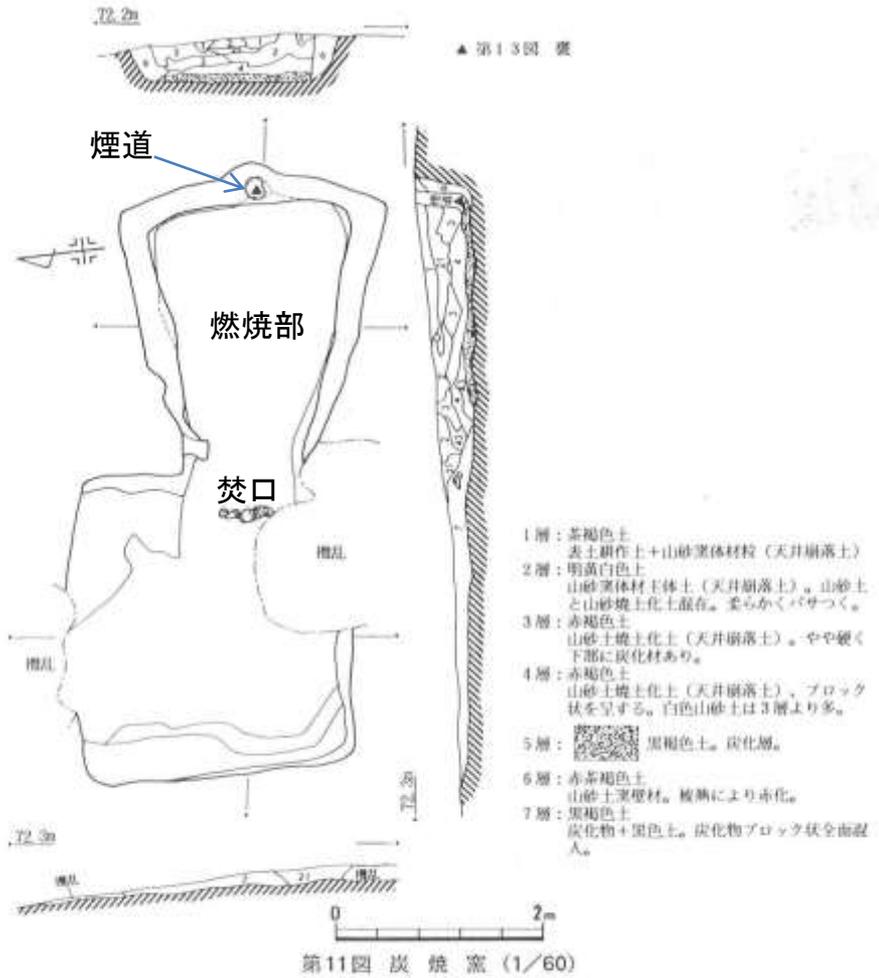
柱穴出土の北宋銭
(嘉祐元寶 初鑄1056年)

平成9年の都道工事に伴う調査・・・中世以降の溝2条 遺構外から温石出土



遺構外出土の温石

平成5年の調査・・・近世(江戸時代)の炭焼窯1基
 大栗川流域の炭焼窯としては最下流に位置
 近世には多摩丘陵一帯で炭焼が行われていた



炭焼イメージ(今昔くらしぶり図絵より)

炭焼窯平面図